



2023年3月期 決算説明会資料

2023年3月期決算 & 2024年3月期業績予想

日本発条株式会社(東証プライム市場 5991)
NHK Spring Co., Ltd.(5991/TSE Prime Market)

NHKニッパツ
NHK SPRING CO.,LTD.

23.3期 決算概要

代表取締役副社長
CFO

吉村 秀文

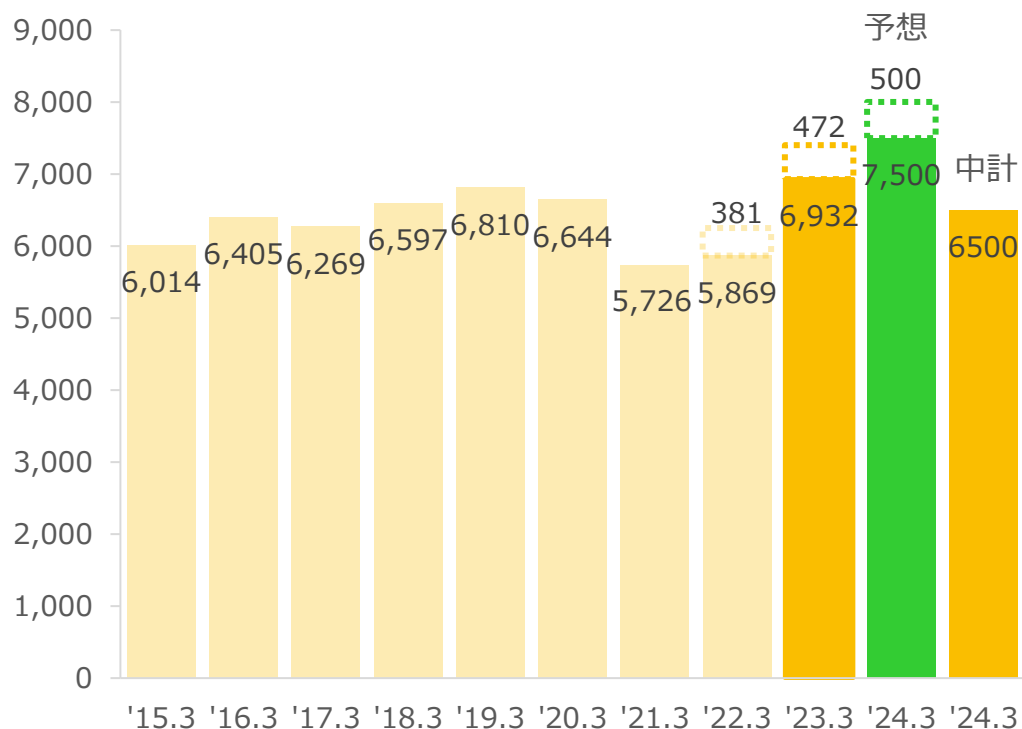
23.3期 決算および24.3期業績予想の概要

(億円)

	22.3期 実績	23.3期 実績	増 減 対前期	24.3期 予想	24.3予想対23.3実績 増減	比率	24.3期 中計	24.3予想対中計 増減	比率
売上高	5,869	6,932	1,063	7,500	567	8.2%	6,500	1,000	13.3%
営業利益	213	288	74	350	61	21.4%	400	△50	△14.3%
営業利益率	3.6%	4.2%	0.5%	4.7%	0.5%	-	6.2%	△1.5%	△31.9%
経常利益	306	373	66	400	26	7.2%	420	△20	△5.0%
経常利益率	5.2%	5.4%	0.2%	5.3%	△0.0%	-	6.5%	△1.1%	△21.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	319	215	△104	250	34	16.1%	250	0	-
特別損益	194	△70	△264	-	70	-	-	0	-
1株当たり当期純利益 (EPS) (単位:円)	140.33	94.50	-	110.37	15.87	-	-	-	-
自己資本利益率 (ROE)	10.5%	6.4%	-	7.0%	0.6%	-	8.0%	△1.0%	-
平均為替レート									
US \$	112.9	135.0	22.1	130.0	△5.0	-	100.0	30.0	-
タイバーツ	3.4	3.7	0.3	3.8	0.1	-	3.2	0.6	-
期末為替レート									
US \$	122.4	133.5	11.1	130.0	△3.5	-	100.0	30.0	-
タイバーツ	3.4	3.8	0.4	3.8	-	-	3.2	0.6	-

売上高

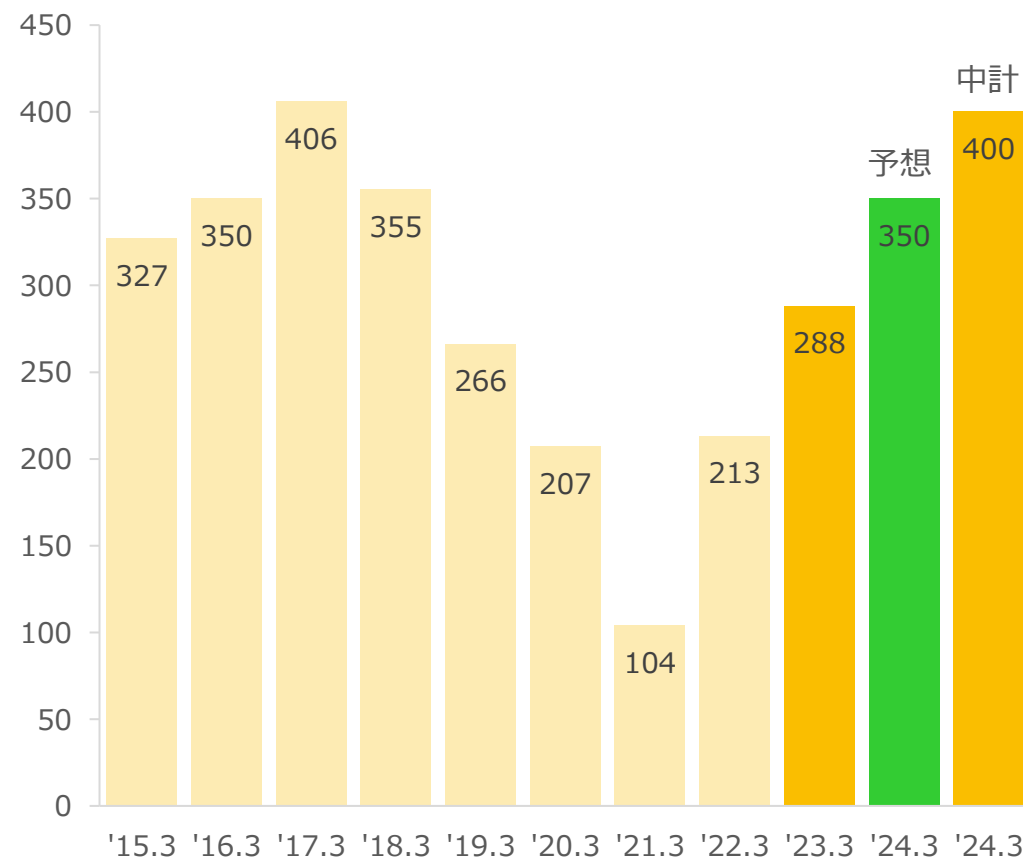
(億円)



『収益認識に関する会計基準（改正企業会計基準第29号）』の適用により、従来は売上高として計上していた顧客からの有償支給額を、2022年3月期より売上原価と相殺表示しており、上記グラフにおいて影響額を破線で表示しております。

営業利益

(億円)



特別利益・特別損失

特別損益 主な内訳

(億円)

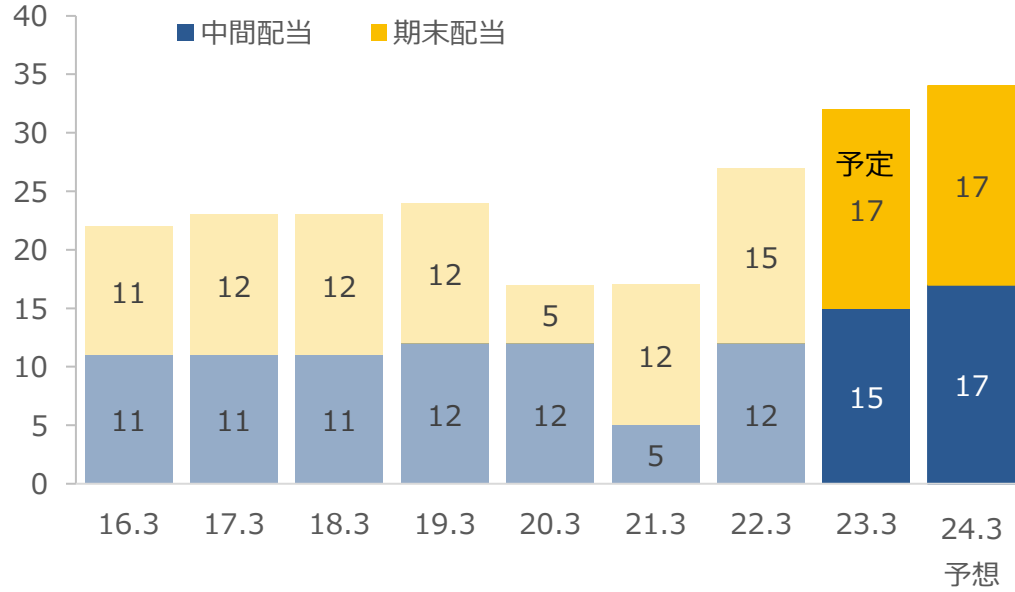
科目	内容	金額
特別損失 減損損失	生産設備	55
	訴訟和解金	13
	その他	1
計		70

減損損失 内訳

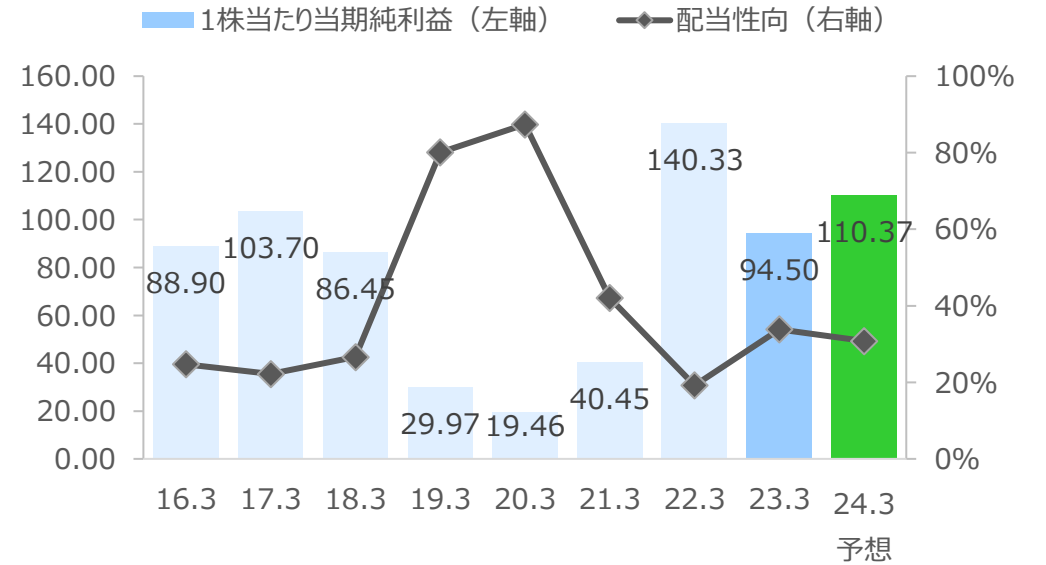
(億円)

用途	拠点	対象	金額
生産設備	当社精密事業	建物、機械装置 ほか	52
	アメリカ子会社	機械装置 ほか	2
計			55

1株当たり配当額



1株当たり当期純利益



	第2四半期末	期末	合計	配当性向
23.3期	15.0円 (実績)	17.0円 (予定)	32.0円	33.9%
24.3期 予想	17.0円	17.0円	34.0円	30.8%

23.3期 決算実績

事業セグメント別の売上高・営業利益の状況

(億円)

		22.3期	23.3期		対前期 増減	対11月予想 増減
		実績	11月時点予想	実績		
■ 懸架ばね	売上高	1,129	1,500	1,468	338	△31
	営業利益	△43	△20	△27	16	△7
	営業利益率	△3.9%	△1.3%	△1.9%	2.0%	△0.5%
■ シート	売上高	2,084	2,670	2,737	653	67
	営業利益	△28	90	73	101	△16
	営業利益率	△1.4%	3.4%	2.7%	4.0%	△0.7%
■ 精密部品	売上高	1,622	1,680	1,594	△28	△85
	営業利益	178	170	114	△63	△55
	営業利益率	11.0%	10.1%	7.2%	△3.8%	△2.9%
■ 産業機器ほか	売上高	1,031	1,150	1,131	100	△18
	営業利益	107	140	127	20	△12
	営業利益率	10.4%	12.2%	11.3%	0.9%	△0.9%
合計	売上高	5,869	7,000	6,932	1,063	△67
	営業利益	213	380	288	74	△91
	営業利益率	3.6%	5.4%	4.2%	0.5%	△1.3%

▽対前期実績

自動車関連事業は、半導体供給不足等による自動車メーカーの生産調整の影響を受けたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響からの持ち直しの動きにより、売上数量は一定程度回復。また円安進行による在外子会社の円換算影響や、鋼材価格高騰分の販売価格への反映などにより売上は大きく増加した。

非自動車関連事業は、円安による利益押し上げや半導体プロセス部品の売上拡大はあったものの、下期以降のHDD市場減速によりサスペンションの売上数量が大幅減となった。

▽対11月時点予想

自動車関連事業は、諸費用の価格高騰影響の販売価格への反映は進んだものの、半導体供給不足等による自動車メーカーの減産影響を想定以上に大きく受けた。

非自動車関連事業においても、下期以降のHDD市場の減速や半導体プロセス部品の受注減が影響し、減収減益の結果となった。

地域セグメント別の売上高・営業利益の状況

(億円)

		22.3期 実績	23.3期		対前期 増減	対11月予想 増減
			11月時点予想	実績		
●日本	売上高	3,413	3,967	3,910	496	△56
	営業利益	201	274	247	45	△26
	営業利益率	5.9%	6.9%	6.3%	0.4%	△0.6%
●アジア	売上高	1,665	1,858	1,867	202	9
	営業利益	102	123	104	2	△18
	営業利益率	6.1%	6.6%	5.6%	△0.5%	△1.0%
●米欧ほか	売上高	790	1,175	1,153	363	△21
	営業利益	△90	△17	△63	26	△46
	営業利益率	△11.4%	△1.4%	△5.5%	5.9%	△4.0%
合計	売上高	5,869	7,000	6,932	1,063	△67
	営業利益	213	380	288	74	△91
	営業利益率	3.6%	5.4%	4.2%	0.5%	△1.3%

▽対前期実績

自動車関連事業は、すべての地域において半導体供給不足等による客先減産調整の影響は受けたものの、総じて回復基調で推移。

またアジア・米欧ほかセグメントにおいては、円安進行による換算影響で売上規模が増加している。

課題となっている米欧については依然赤字ではあるものの、シートを中心に前年度から収支が改善。

またHDD用サスペンションの数量減に伴い、生産拠点を置くアジア（タイ・中国）の利益率は前年比で低下。

▽対11月時点予想

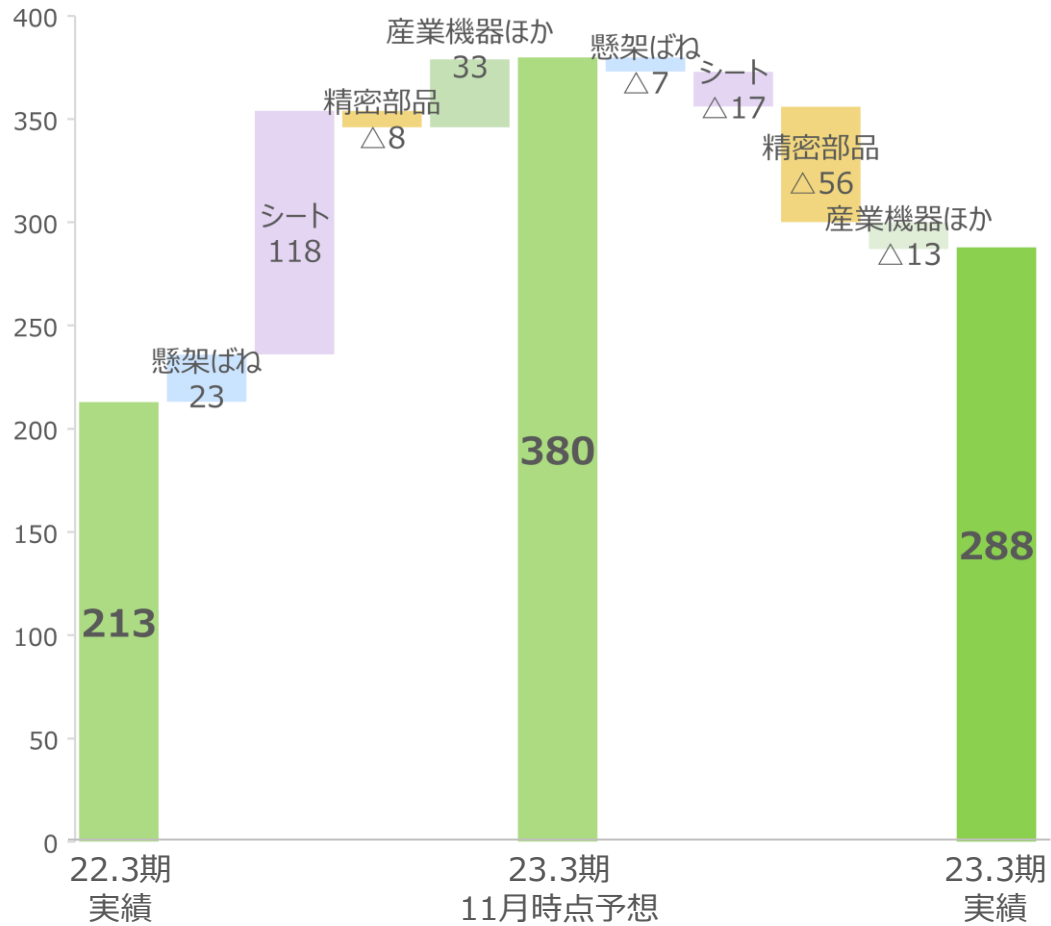
日本・アジアは半導体供給不足等による自動車メーカーの減産影響のほかHDD市場の減速影響を強く受けた。

米欧セグメントは半導体供給不足等による客先生産調整のほか、SUBARUビジネスの数量減や労務費単価上昇影響などが重なり、減収減益となった。

営業利益のセグメント別推移

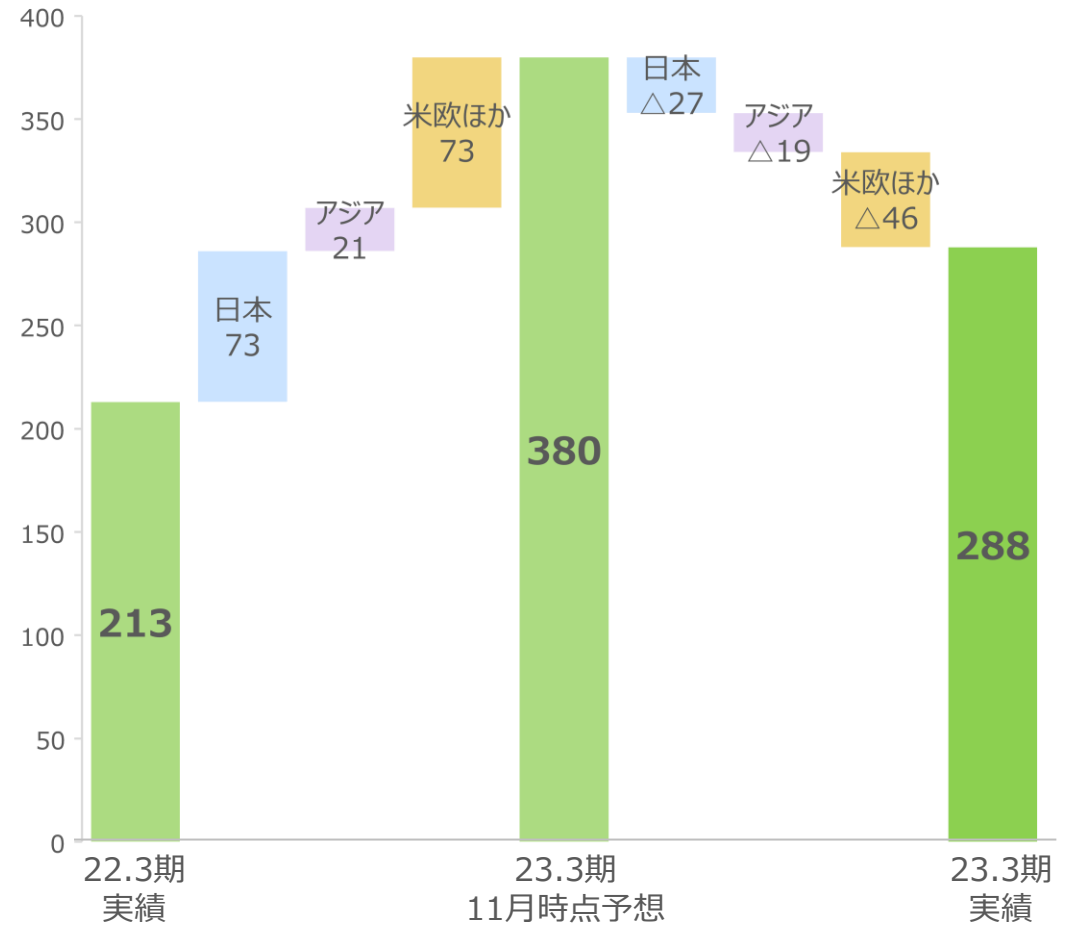
事業セグメント別

(億円)



地域セグメント別

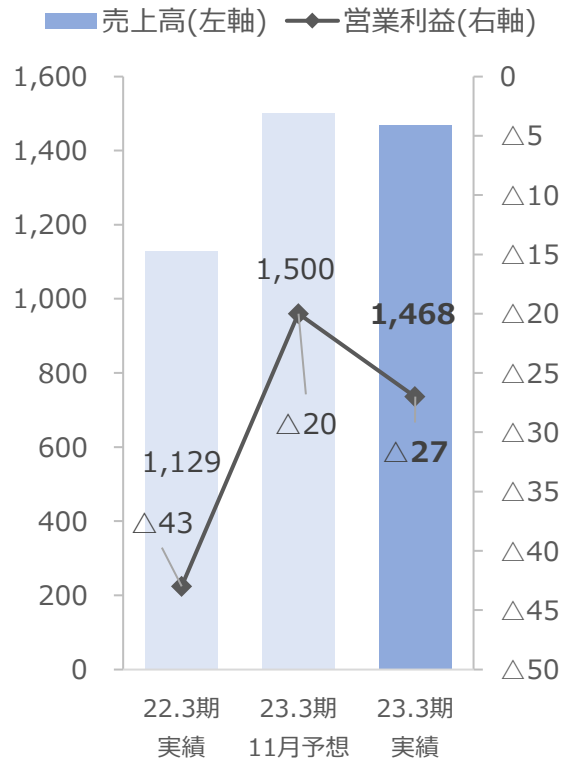
(億円)



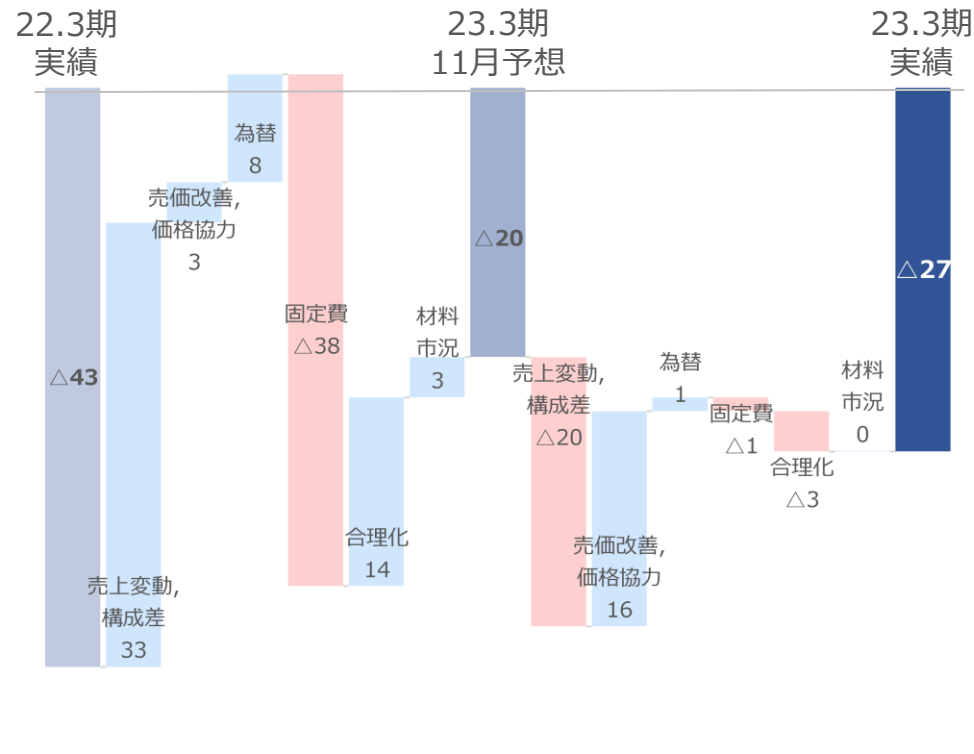
	22.3期 実績	23.3期		対前期 増減	対11月予想 増減
		11月時点予想	実績		
売上高	1,129	1,500	1,468	338	△31
営業利益	△43	△20	△27	16	△7
営業利益率	△3.9%	△1.3%	△1.9%	2.0%	△0.5%

(億円)

業績推移



営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

半導体供給不足等による自動車メーカーの生産調整の影響を受けたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響からの持ち直しの動きにより売上数量は一定程度回復。

損益面では、諸費用の価格高騰など外部環境変化、米国を中心とする労務費増が利益を押し下げたが、鋼材価格高騰分の販売価格への反映や円安による換算影響等により前期に対しては改善した。

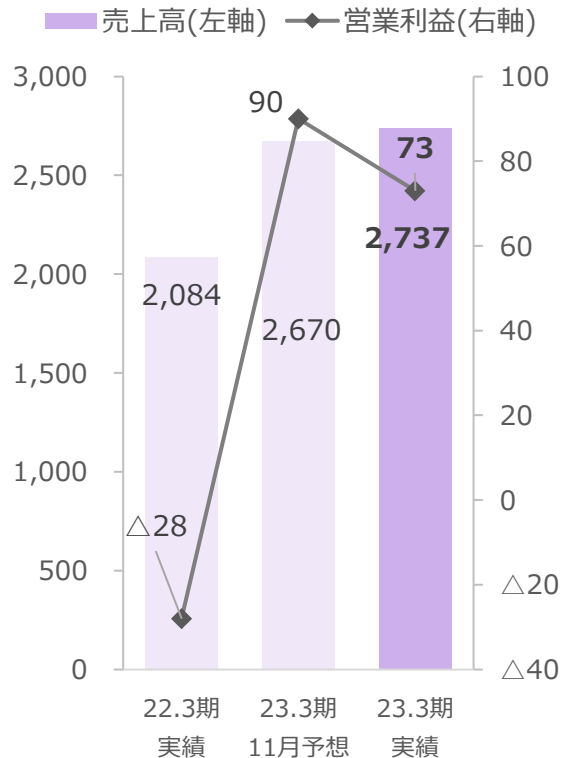
▽対11月時点予想

国内を中心に補材・経費・エネルギーコスト等の高騰影響の販売価格への反映は進んだものの、半導体供給不足等による自動車メーカーの減産影響を想定以上に受け減収減益となった。

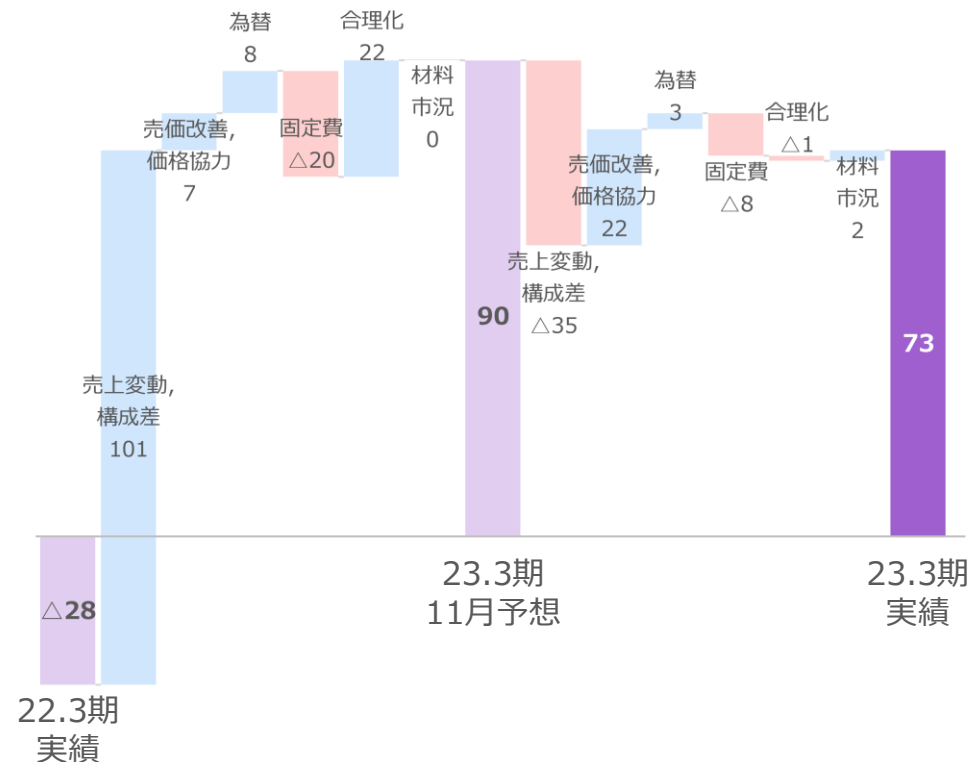
	22.3期 実績	23.3期		対前期 増減	対11月予想 増減
		11月時点予想	実績		
売上高	2,084	2,670	2,737	653	67
営業利益	△28	90	73	101	△16
営業利益率	△1.4%	3.4%	2.7%	4.0%	△0.7%

(億円)

業績推移



営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

半導体供給不足等による自動車メーカーの生産調整、鋼材・エネルギーコスト等の価格高騰影響を受けたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響からの持ち直し、円安による在外子会社の円換算額の増加等により増収増益となった。

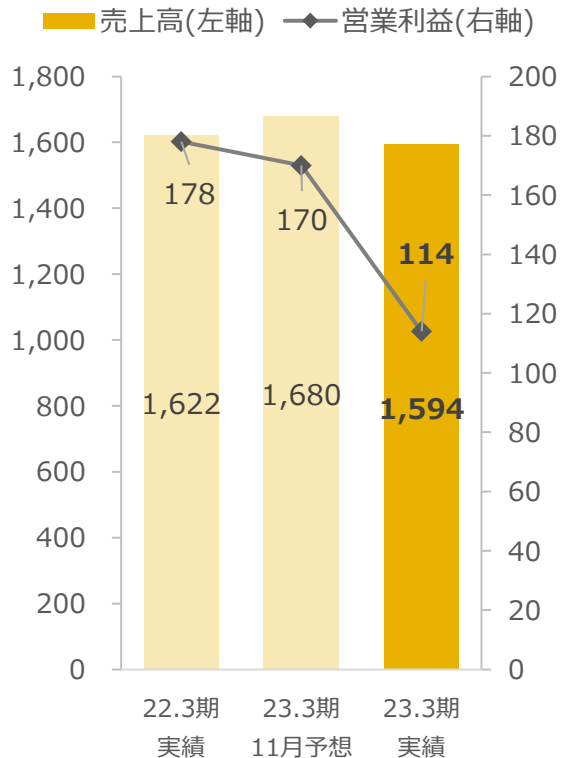
▽対11月時点予想

主として第4四半期以降のSUBARUビジネス減産影響と、米国におけるサプライチェーン維持のための一過性費用▲11億円計上により営業利益は前回予想を下回った。

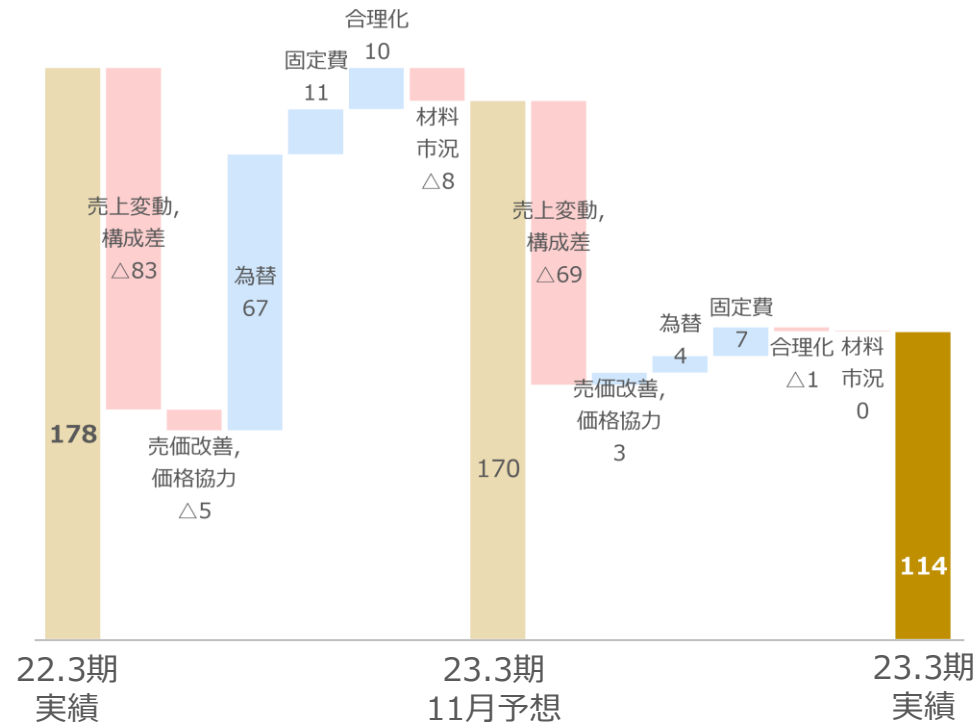
	22.3期 実績	23.3期		対前期 増減	対11月予想 増減
		11月時点予想	実績		
売上高	1,622	1,680	1,594	△28	△85
営業利益	178	170	114	△63	△55
営業利益率	11.0%	10.1%	7.2%	△3.8%	△2.9%

(億円)

業績推移



営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

自動車関連事業においては、半導体供給不足等による自動車メーカーの生産調整影響を受け減収減益。

情報通信関連事業においては、円安による利益押上効果はあったものの、HDDメーカーの生産調整によりサスペンション売上数量が大幅減となった。

▽対11月時点予想

自動車関連事業は、日本・米国を中心に半導体供給不足等による自動車メーカーの減産影響を想定以上に受けた。

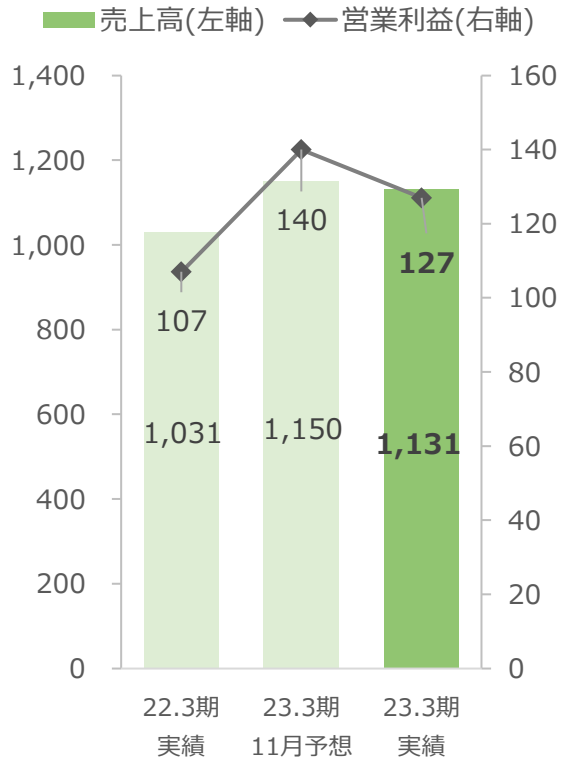
情報通信関連事業においても、下期以降の市場減速は見込んでいたものの、想定以上にHDDサスペンション需要が落ち込む結果となった。

事業セグメント別分析：産業機器ほか

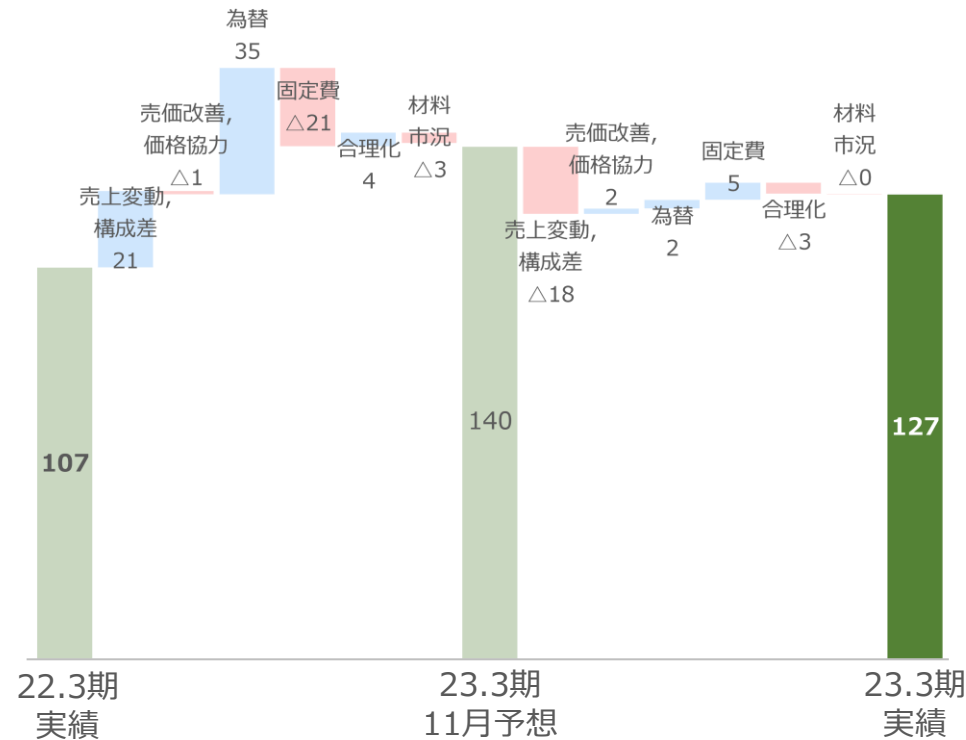
(億円)

	22.3期 実績	23.3期		対前期 増減	対11月予想 増減
		11月時点予想	実績		
売上高	1,031	1,150	1,131	100	△18
営業利益	107	140	127	20	△12
営業利益率	10.4%	12.2%	11.3%	0.9%	△0.9%

業績推移



営業利益の変動要因分析



▽対前期実績

自動車関連事業において新型コロナウイルス感染症拡大の影響から持ち直しの動きが見られていることや、半導体プロセス部品の受注が好調に推移したこと、また為替が円安に推移した影響もあって増収増益となった。

▽対11月時点予想

自動車関連事業やゴルフシャフトは好調に推移したものの、下期以降の半導体プロセス部品の受注減が影響し、売上・損益ともに前回予想から下振れした。

24.3期 業績予想

24.3期 業績予想

(億円)

	23.3期 実績	24.3期 予想	24.3予想対23.3実績		24.3期 中計	24.3予想対中計	
			増減	比率		増減	比率
売上高	6,932	7,500	567	8.2%	6,500	1,000	13.3%
営業利益	288	350	61	21.4%	400	△50	△14.3%
営業利益率	4.2%	4.7%	0.5%	—	6.2%	△1.5%	△31.9%
経常利益	373	400	26	7.2%	420	△20	△5.0%
経常利益率	5.4%	5.3%	1.8%	—	6.5%	△1.1%	△21.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	215	250	34	16.1%	250	0	—
特別損益	△70	—	—	—	—	0	—
1株当たり当期純利益 (EPS) (単位:円)	94.50	110.37	—	—	—	—	—
自己資本利益率 (ROE)	6.4%	7.0%	—	—	8.0%	△1.0%	—
予想平均為替レート	US \$	135.0	△5.0	—	100.0	30.0	—
	タイバーツ	3.7	0.1	—	3.2	0.6	—

事業セグメント別売上高・営業利益の予想

(億円)

		23.3期	24.3期	24.3予想対23.3実績		24.3期	24.3予想対中計	
		実績	予想	増減	比率	中計	増減	比率
■ 懸架ばね	売上高	1,468	1,591	122	8.3%	1,210	381	23.9%
	営業利益	△27	21	48	-	30	△9	△42.9%
	営業利益率	△1.9%	1.3%	3.2%	-	2.5%	△1.2%	-87.8%
■ シート	売上高	2,737	2,975	237	8.7%	2,400	575	19.3%
	営業利益	73	118	44	61.4%	80	38	32.2%
	営業利益率	2.7%	4.0%	1.3%	-	3.3%	0.6%	16.0%
■ 精密部品	売上高	1,594	1,797	202	12.7%	1,790	7	0.4%
	営業利益	114	125	10	9.0%	180	△55	△44.0%
	営業利益率	7.2%	7.0%	△0.2%	-	10.1%	△3.1%	-44.6%
■ 産業機器ほか	売上高	1,131	1,137	5	0.4%	1,100	37	3.3%
	営業利益	127	86	△41	△32.8%	110	△24	△27.9%
	営業利益率	11.3%	7.6%	△3.7%	-	10.0%	△2.4%	-32.2%
合計	売上高	6,932	7,500	567	8.2%	6,500	1,000	13.3%
	営業利益	288	350	61	21.4%	400	△50	△14.3%
	営業利益率	4.2%	4.7%	0.5%	-	6.2%	△1.5%	-31.9%

▽対前期実績

■ 懸架ばね

諸費用単価高騰影響の販売価格への反映等のほか、売価改善や合理化活動を強力に推し進め、利益体質への転換を目指す。

■ シート

日本・米国を中心に台数増。加えて合理化活動による原価低減により増収増益を見込む。

■ 精密部品

自動車関連分野は数量増。HDD用サスペンションの需要は上期までは低調に推移するものの、下期以降の回復を想定。

■ 産業機器ほか

半導体プロセス部品の数量回復は下期以降となる想定。為替による利益押し下げ影響もあり、営業利益は前年度を下回る見通し。

地域別売上高・営業利益の予想

(億円)

		23.3期 実績	24.3期 予想	24.3予想対23.3実績		24.3期 中計	24.3予想対中計	
				増減	比率		増減	比率
●日本	売上高	3,910	4,280	369	9.4%	4,090	190	4.4%
	営業利益	247	217	△30	△12.3%	270	△53	-
	営業利益率	6.3%	5.1%	△1.3%	-	6.6%	△1.5%	-
●アジア	売上高	1,867	2,012	144	7.7%	1,500	512	25.4%
	営業利益	104	125	20	19.7%	110	15	12.0%
	営業利益率	5.6%	6.2%	0.6%	-	7.3%	△1.1%	-
●米欧ほか	売上高	1,153	1,208	54	4.7%	910	298	24.7%
	営業利益	△63	8	71	-	20	△12	△150.0%
	営業利益率	△5.5%	0.7%	6.2%	-	2.2%	△1.5%	-
合計	売上高	6,932	7,500	567	8.2%	6,500	1,000	13.3%
	営業利益	288	350	61	21.4%	400	△50	△14.3%
	営業利益率	4.2%	4.7%	0.5%	-	6.2%	△1.5%	-

▽対前期実績

●日本

自動車関連分野は数量増も、情報通信関連の数量回復が下期以降となることや、為替による利益押し下げ影響もあって、増収減益となる見通し。

●アジア

HDD関連部品はタイ・中国とも減益想定も、自動車関連分野は数量回復により増収増益となる見通し。

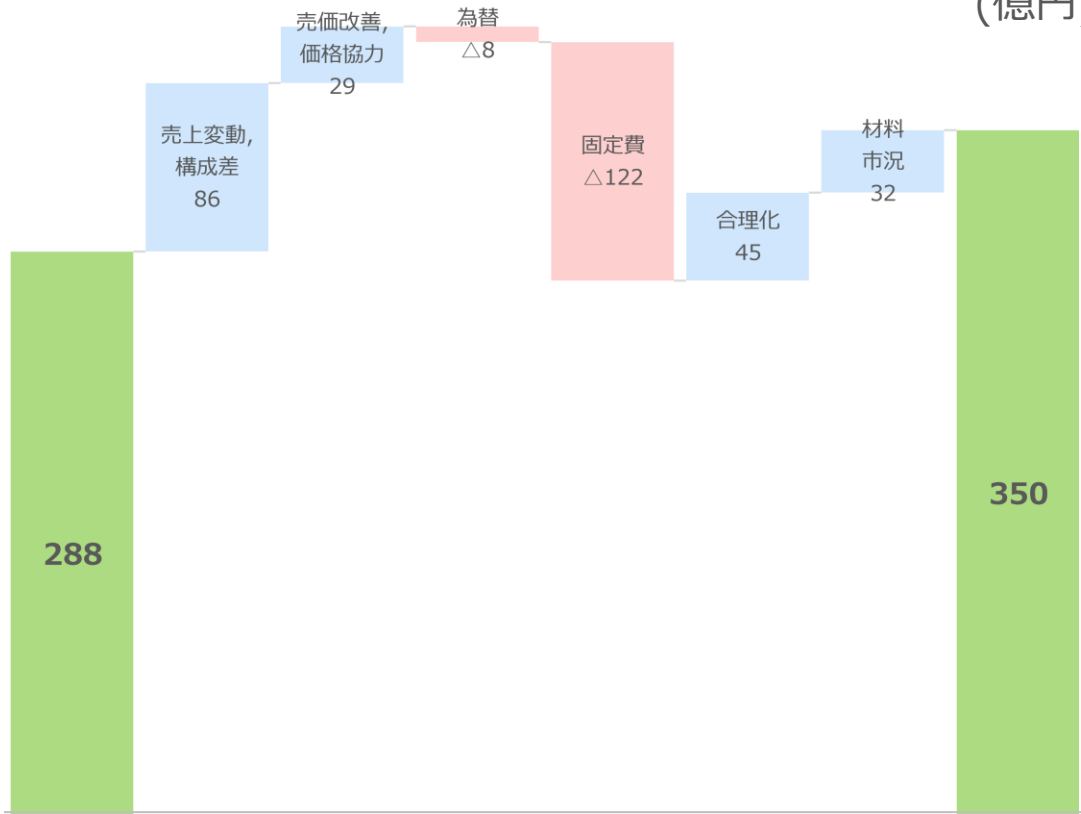
●米欧ほか

数量増に加え、物流費・エネルギーコスト・労務費レート等のインフレ影響分の販売価格への反映を推し進め、米欧事業の黒字転換を目指す。

営業利益の変動要因分析

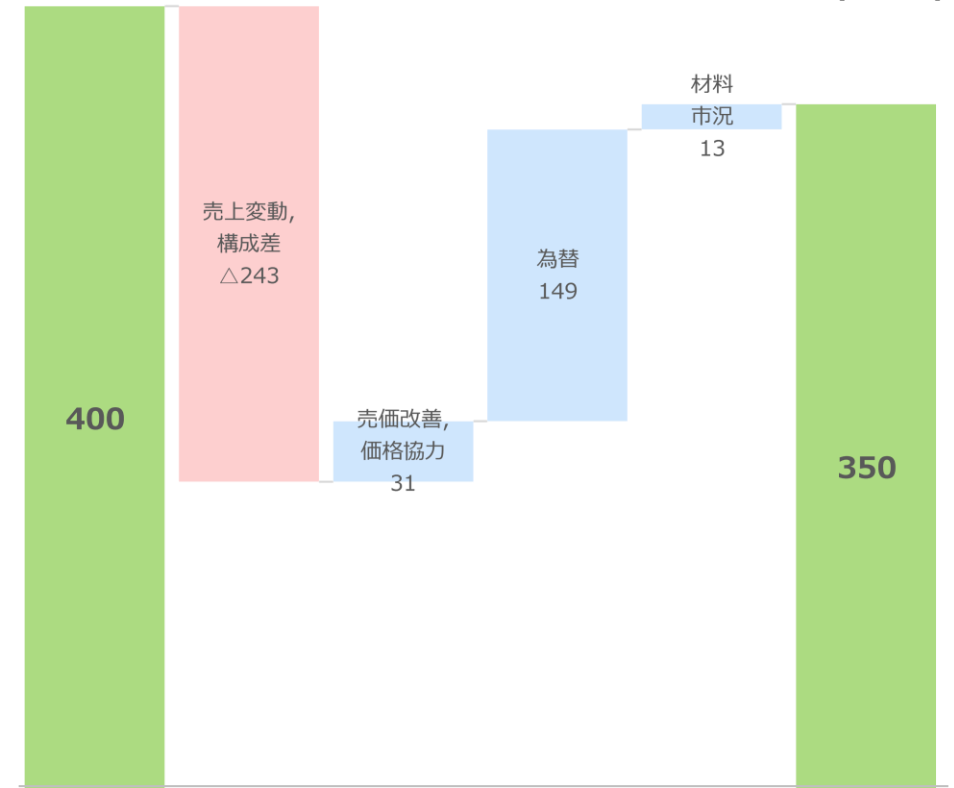
24.3期予算 対23.3期実績

(億円)



24.3期予算 対24.3期中期計画

(億円)



23.3
実績

24.3期
予想

24.3期
中計

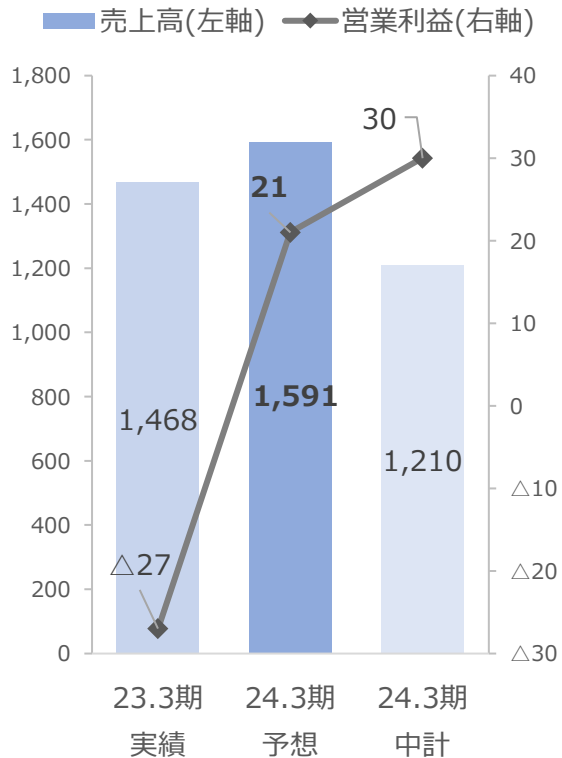
24.3期
予想

事業セグメント別分析：懸架ばね

(億円)

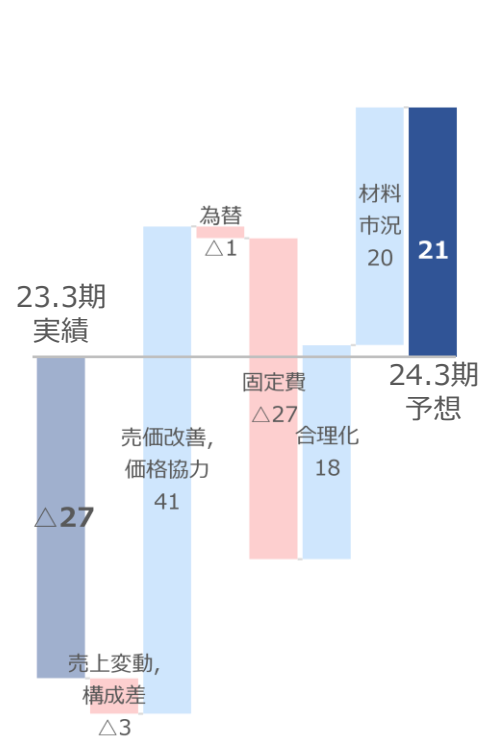
	23.3期 実績	24.3期 予想	24.3予想対23.3実績 増減	24.3期 中計	24.3予想対中計 増減
売上高	1,468	1,591	122	1,210	381
営業利益	△27	21	48	30	△9
営業利益率	△1.9%	1.3%	3.2%	2.5%	△1.2%

業績比較

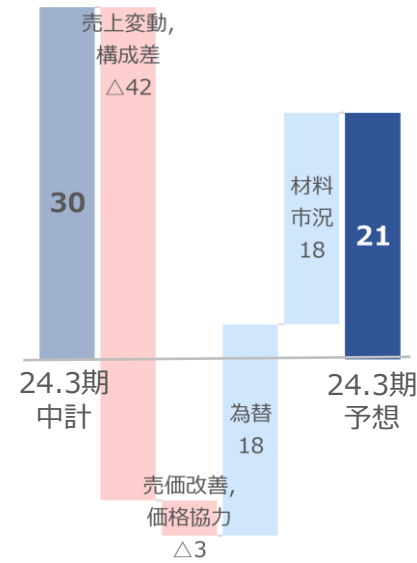


営業利益の変動要因分析

▼予想対実績



▼予想対中計



▽予想対前期実績

半導体不足は徐々に解消されつつあるものの、供給安定化時期は未だ見通しづらい状況。課題となっている米欧事業の諸費用単価高騰影響の销售价格への反映等のほか、売価改善や合理化活動を強力に推し進め、黒字体質への転換を目指す。

▽予想対中期計画

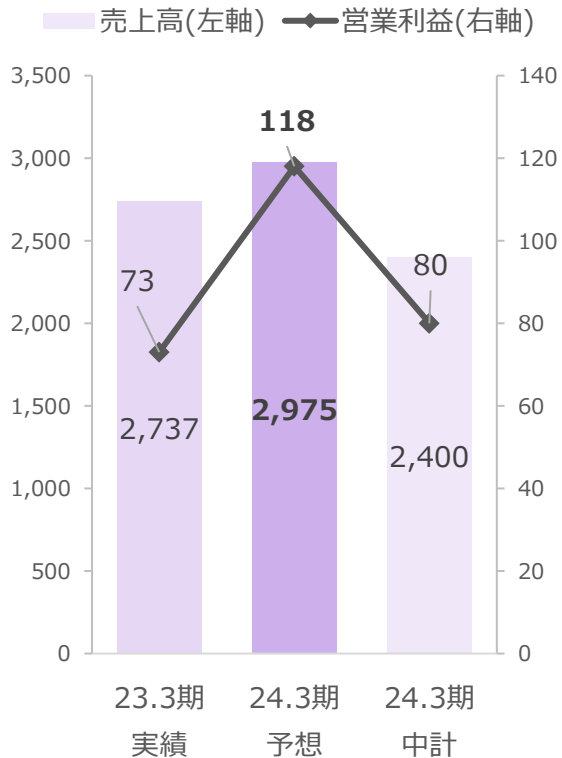
鋼材等の価格高騰分の销售价格への反映と円安影響により売上は当初計画値を大きく上回る見通し。しかし数量減および補材経費・エネルギーコストの高騰影響等により利益目標は中計を下回る見通し。

事業セグメント別分析：シート

(億円)

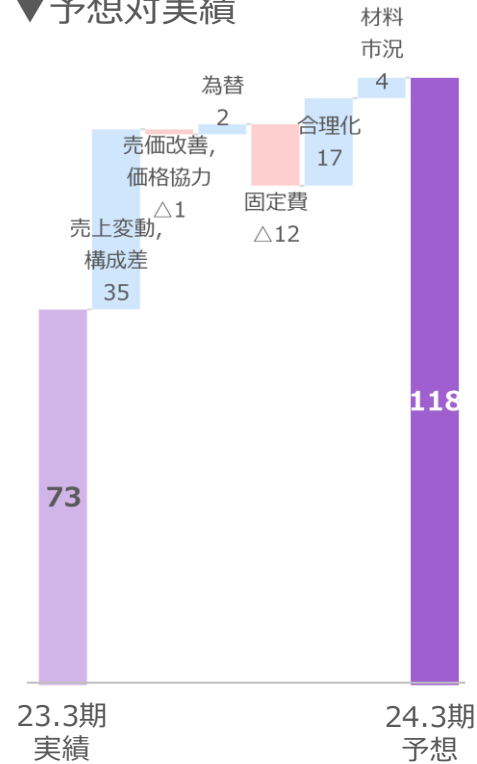
	23.3期 実績	24.3期 予想	24.3予想対23.3実績 増減	24.3期 中計	24.3予想対中計 増減
売上高	2,737	2,975	237	2,400	575
営業利益	73	118	44	80	38
営業利益率	2.7%	4.0%	1.3%	3.3%	0.6%

業績比較

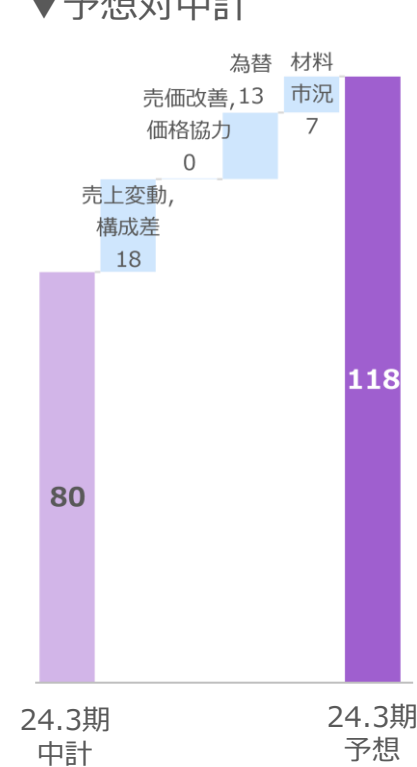


営業利益の変動要因分析

▼予想対実績



▼予想対中計



▽予想対前期実績

半導体供給不足等による客先の減産影響については解消時期が不透明ではあるものの、自動車生産台数は回復に向かうと想定。

SUBARU・日産向け台数増により日本・米国を中心に数量増。更に合理化による原価低減活動を通じて、大幅な増収増益を目指す。

▽予想対中期計画

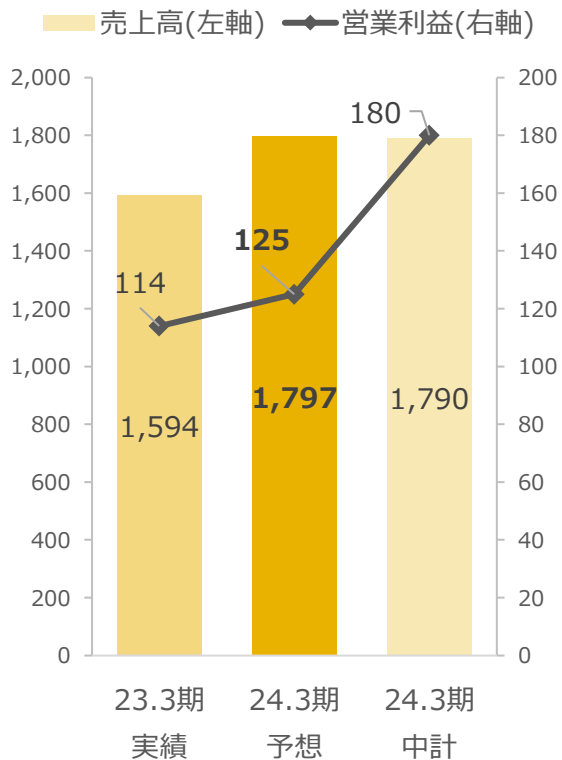
米国拠点は利益目標を下回るものの日本・タイが収支を牽引。更に円安による換算影響も加わり、シート事業全体としては増収増益を見込む。

事業セグメント別分析：精密部品

(億円)

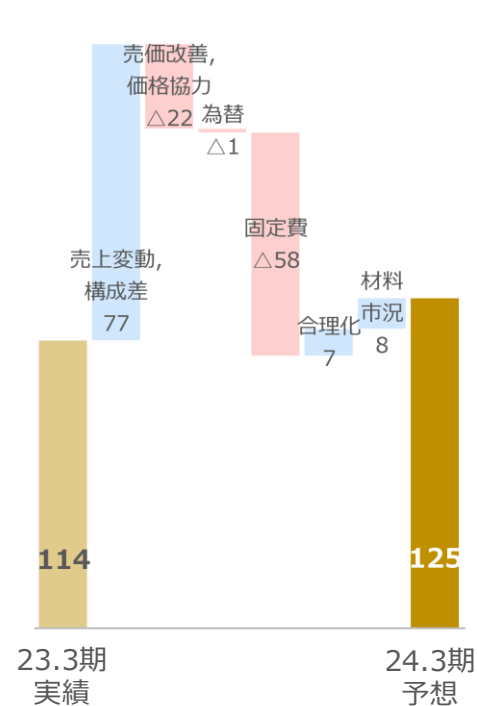
	23.3期 実績	24.3期 予想	24.3予想対23.3実績 増減	24.3期 中計	24.3予想対中計 増減
売上高	1,594	1,797	202	1,790	7
営業利益	114	125	10	180	△55
営業利益率	7.2%	7.0%	△0.2%	10.1%	△3.1%

業績比較

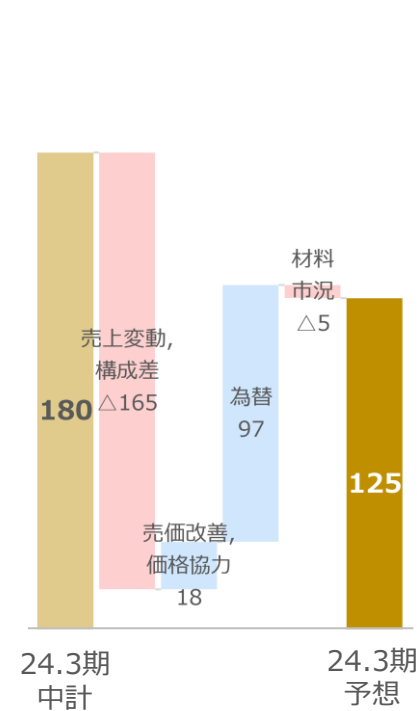


営業利益の変動要因分析

▼予想対実績



▼予想対中計



▽予想対前期実績

HDD用サスペンションの需要は上期までは低調に推移するものの、下期以降の回復を想定。

自動車関連分野は、生産台数の回復に加え、次期主力製品であるモーターコアの事業規模拡大や鋼材価格高騰分の販売価格への反映等が寄与し増収増益となる見込み。

▽予想対中期計画

自動車関連分野は、米欧事業の収支が中計目標に達する見込みも、エンジン・トランスミッション用ばねの数量が当初想定より下振れ。加えて、日本および中国におけるモーターコア売上計画未達なども影響し、当初中計目標からは減収減益の見通し。

HDD関連製品は、円安による利益押上はあるものの、上期の数量減影響が非常に大きく日本・タイ・中国ともに利益目標を若干下回る見通し。

事業セグメント別分析：産業機器ほか

(億円)

	23.3期 実績	24.3期 予想	24.3予想対23.3実績 増減	24.3期 中計	24.3予想対中計 増減
売上高	1,131	1,137	5	1,100	37
営業利益	127	86	△41	110	△24
営業利益率	11.3%	7.6%	△3.7%	10.0%	△2.4%

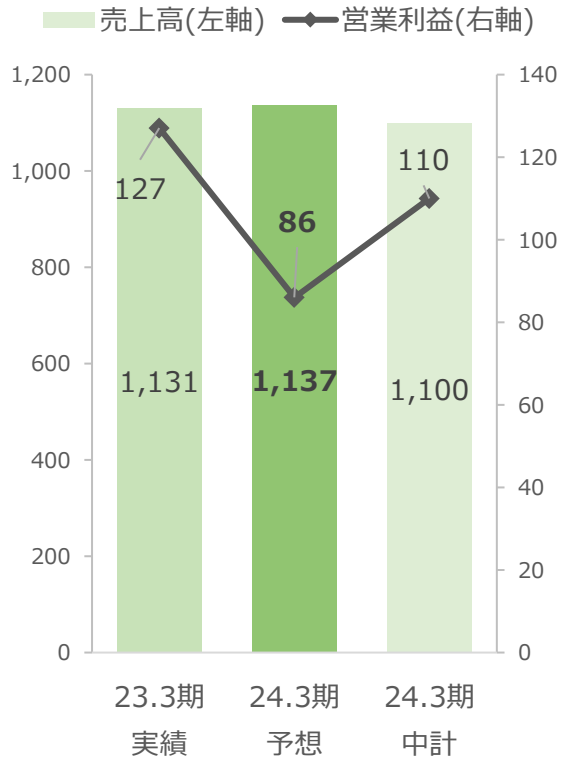
▽予想対前期実績

ゴルフシャフトやマリンプロダクト等のレジャー分野は堅調に推移する見通しも、半導体プロセス部品の数量減や為替による利益押し下げ影響により、営業利益は前年度を下回る見通し。

▽予想対中期計画

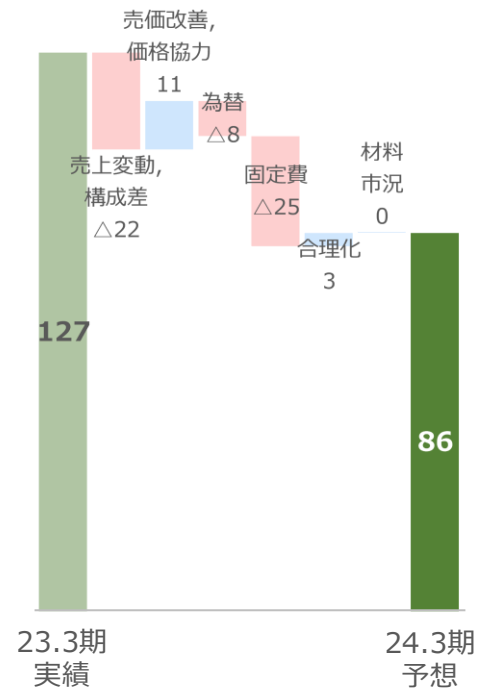
ゴルフシャフト・マリンプロダクト等のレジャー分野は中計目標に対しても好調に推移する見通し。他方の半導体プロセス部品に関しては、円安による利益押し上げはあるものの、上期の数量減が大きく響き、対中計減収減益の見込み。

業績比較

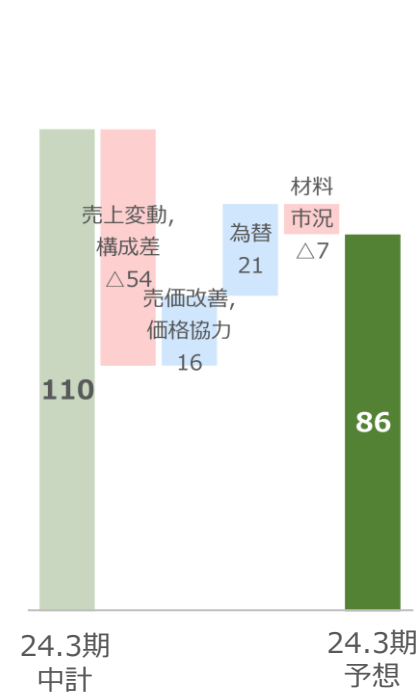


営業利益の変動要因分析

▼予想対実績



▼予想対中計



今後の成長に向けて

代表取締役社長
CEO

茅本 隆司

懸架ばね	懸架ばねの価値向上 最適生産体制	<h3>利益最大化プロジェクト</h3> <p>懸架ばねの価格改善 コスト増に対する適正価格交渉 生産性改善</p>
シート	電動化への対応	<h3>SUBARUプロジェクト</h3> <p>QCDDを意識したマネージメント体制の構築 ニーズに適合したシートの開発</p>
モーターコア	電動化の更なる加速	<h3>モーターコア</h3> <h3>金型</h3> <p>強みを活かした新規拡販 競争力UPと差別化による事業の加速</p>

懸架ばねの取組
利益最大化プロジェクト

懸架ばねの価値向上

価格改善
インフレ上昇分の価格転嫁

労働生産性向上

労務費上昇を前提とした生産性向上
徹底した省人化

設備生産性向上

グローバル稼働率を基に
拠点間での最適生産を目指す

レジリエンス・BCPの強化

安定供給、生産のフレキシブル化を
目的としたグローバル供給体制の
見直し

2023

2024

2025

黒字転換

利益増大

利益最大

懸架ばねの価値向上

価値向上により価格改善

インフレ上昇分の改善

労働生産性向上

省人化

適正生産量の確保

3直→2直生産

設備生産性向上

グローバル複数拠点での生産

レジリエンス・BCP向上

最適化生産体制

シートの取組 スバルプロジェクト

SUBARU様との関係性について

SUBARUシェア

北米：100% 日本：92%

歴史

1969年からシート納入
1989年同期生産

受注から納入までの時間

3時間で納入

北米新工場建設

2021年7月：納入開始

→更にSUBARU様の満足度を向上させる必要がある

お客様からの評価を向上させ関係強化を図るために

Q:品質

開発・設計段階からの品質の作り込み

C:コスト

設計の手戻りをなくし、目標コストを達成させる

D:納期

Project Managerによる工程の明確化
進捗の推進

D:開発

シートの本質の追求
バーチャル開発

Project Management (PM) 体制構築

プロジェクト全体の進行を一元管理、お客様との窓口も一元化
専門部隊は各々の業務に注力し効率化を図る

お客様評価

QCDDを向上させ、迅速に対応することで、評価へと繋げ、更なる強固な関係構築を図る

モーターコアの取組
モーターコアプロジェクト
金型プロジェクト

グローバル生産体制の構築

～受注増加への対応～

- ・ 新生産棟建設（厚木工場）
- ・ 土地取得（メキシコ）
- ・ 生産能力増強（中国）

金型製作能力の増強

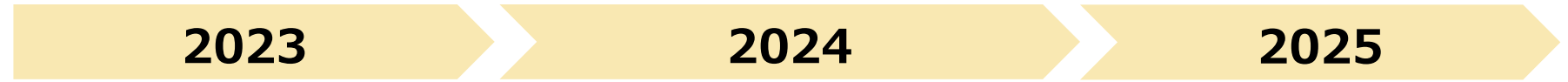
- ・ 設計者の増員と育成
- ・ 加工設備増強
- ・ 設計製作拠点をタイに追加

新工法の開発

- ・ バラコア積層
- ・ 接着積層
- ・ バラコア + α 新工法開発

試作品への積極的対応

- ・ 設計体制強化
- ・ 試作体制強化
- ・ 試作専用プレス導入



生産体制確立

厚木工場新生産棟完成

中国&メキシコ能力増強

金型製作能力増強 ※現行比

製作リードタイム：3/4に短縮
製作能力：2倍

製作リードタイム：1/2に短縮
製作能力：4倍

新工法の開発

バラコア積層
量産性確立

接着積層
量産性確立

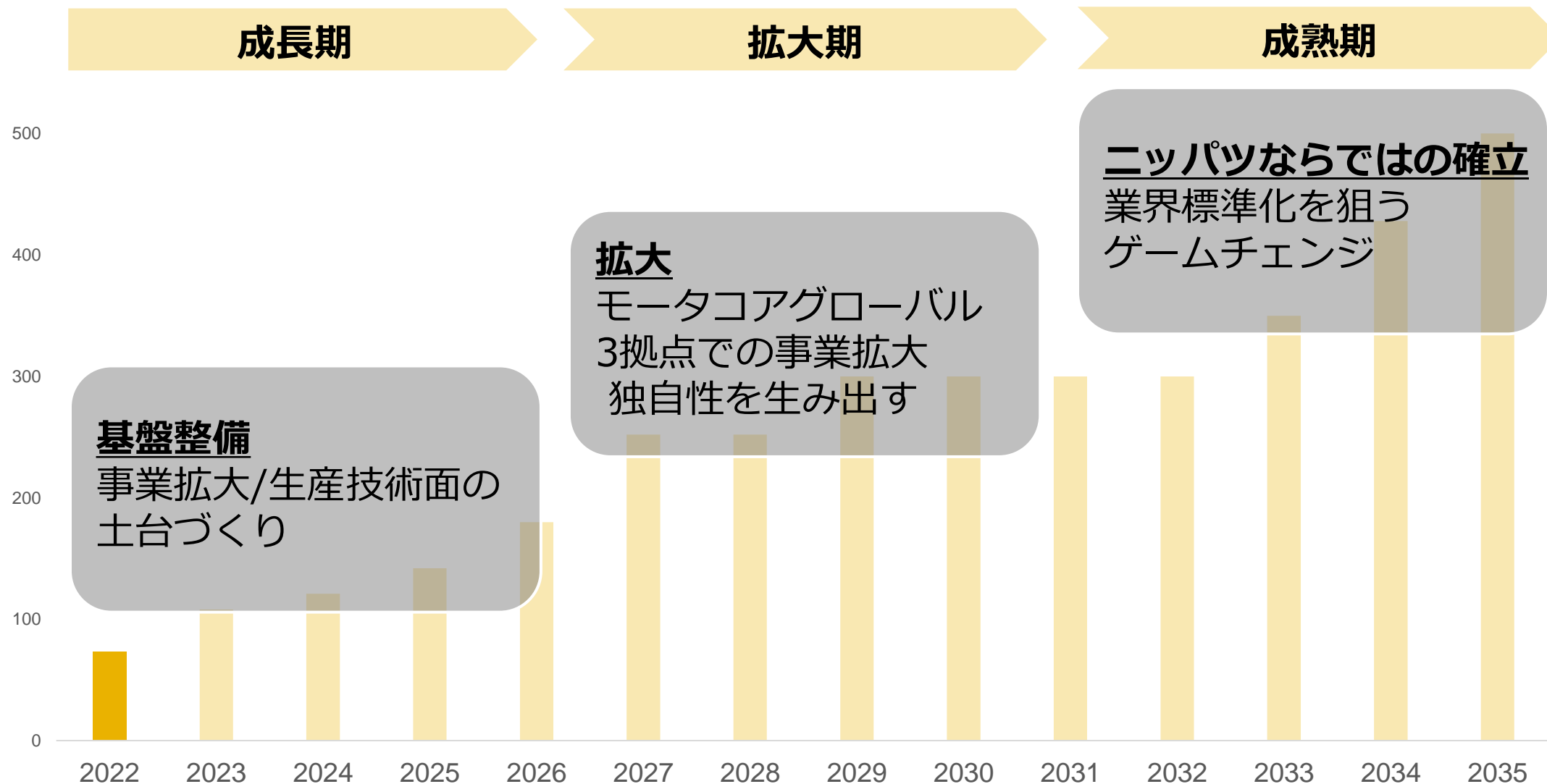
バラコア+α
新工法開発

試作体制の構築

試作設備導入

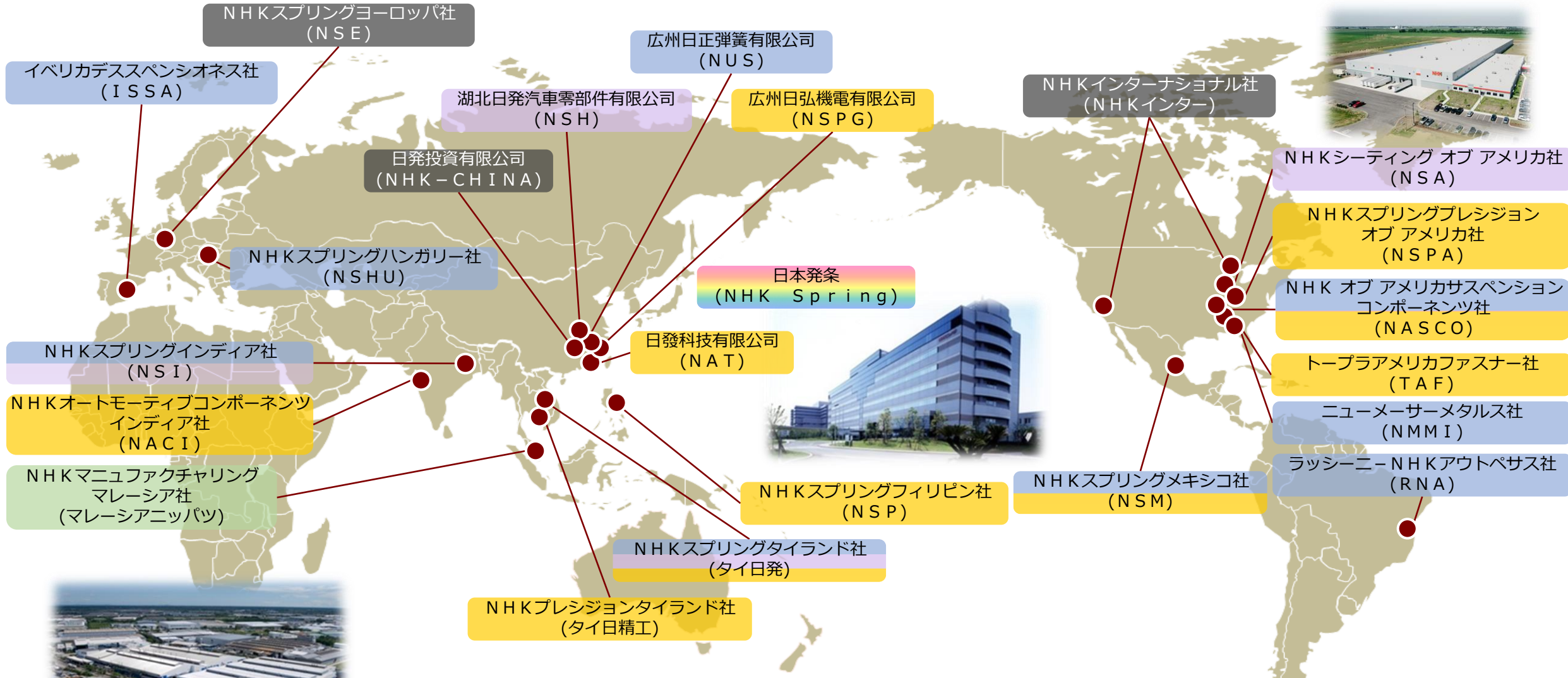
多品種対応

モーターコアのグローバル売上高 (億円)



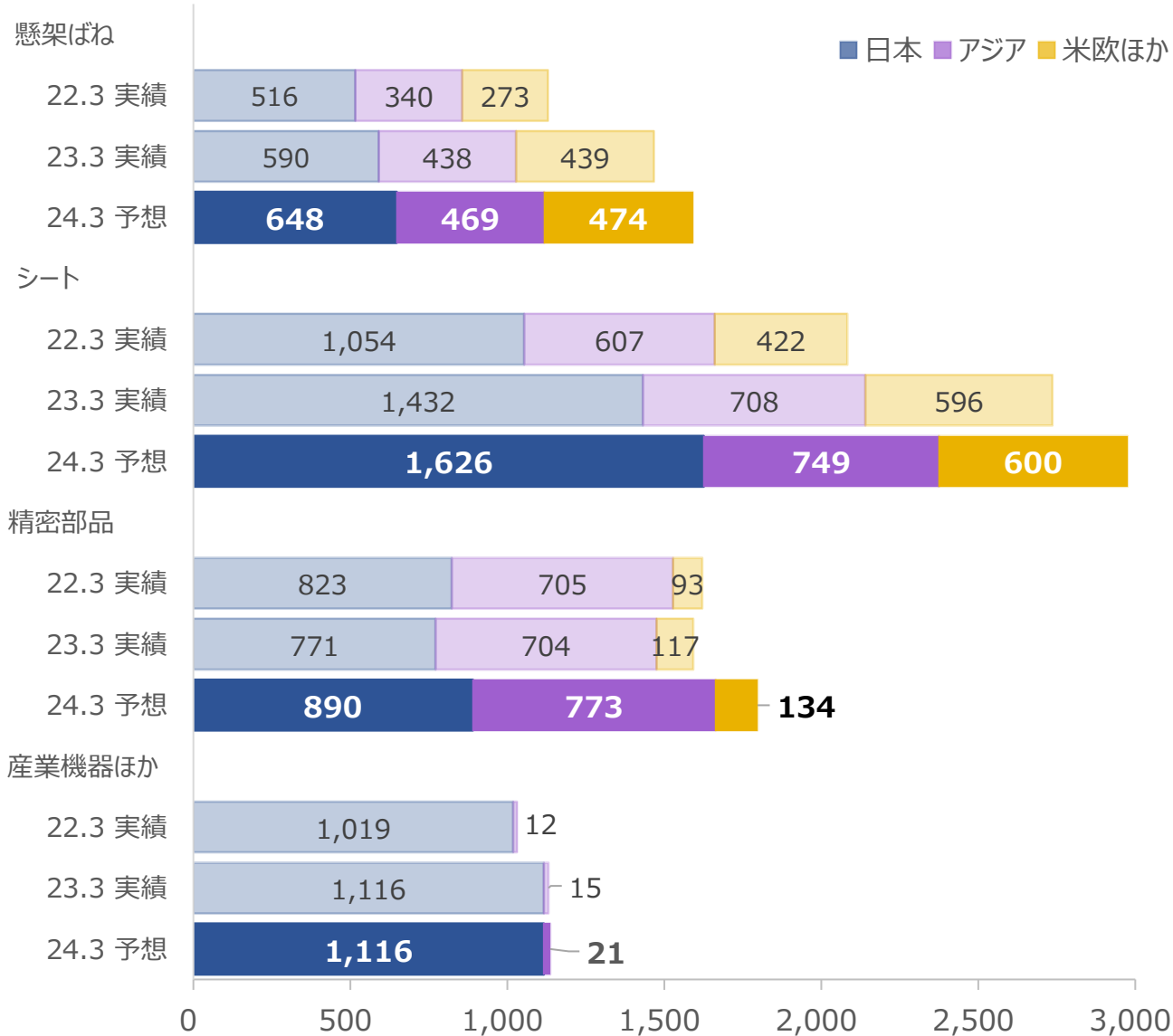
補足資料

主要海外拠点



懸架ばね	精密部品	地域統括・事業支援
シート	産業機器ほか	全製品

売上高の分解情報（通期）



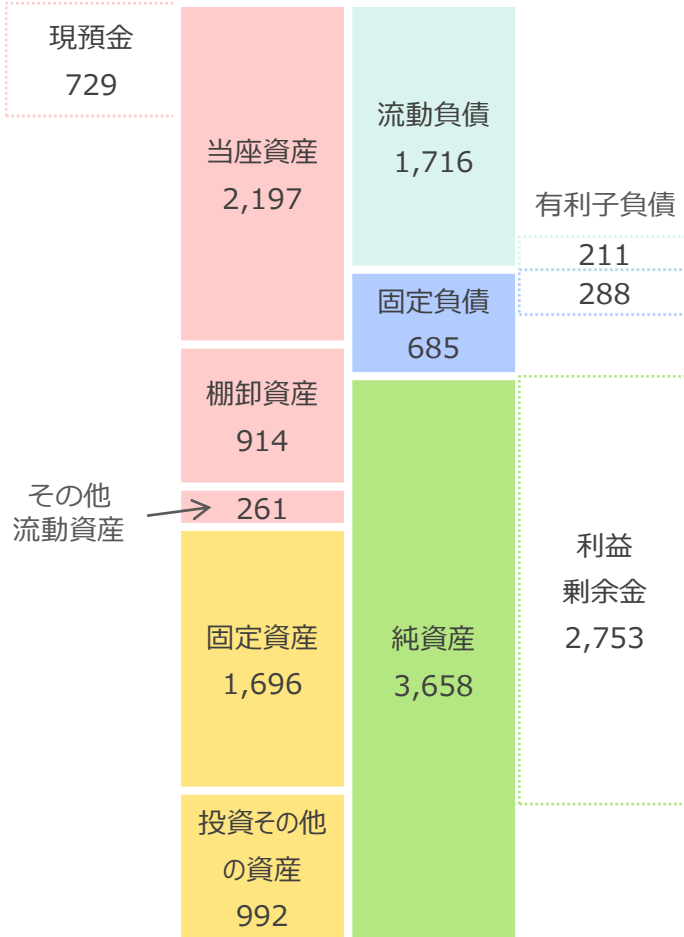
		(億円)			
		日本	アジア	米欧ほか	合計
懸架ばね	22.3 実績	516	340	273	1,129
	23.3 実績	590	438	439	1,468
	24.3 予想	648	469	474	1,591
シート	22.3 実績	1,054	607	422	2,084
	23.3 実績	1,432	708	596	2,737
	24.3 予想	1,626	749	600	2,975
精密部品	22.3 実績	823	705	93	1,622
	23.3 実績	771	704	117	1,594
	24.3 予想	890	773	134	1,797
産業機器ほか	22.3 実績	1,019	12	-	1,031
	23.3 実績	1,116	15	-	1,131
	24.3 予想	1,116	21	-	1,137
合計	22.3 実績	3,413	1,665	790	5,869
	23.3 実績	3,910	1,867	1,153	6,932
	24.3 予想	4,280	2,012	1,208	7,500

(億円)

	19.3期 実績	20.3期 実績	21.3期 実績	22.3期 実績	23.3期 実績	増減額
総資産	5,731	5,326	5,607	5,880	6,060	179
自己資本	2,811	2,709	2,839	3,226	3,492	266
自己資本比率	49.0%	50.9%	50.6%	54.9%	57.6%	2.8%
現預金	985	745	793	921	729	△191
有利子負債	687	581	697	505	500	△5
ネットキャッシュ	298	164	95	416	229	△186

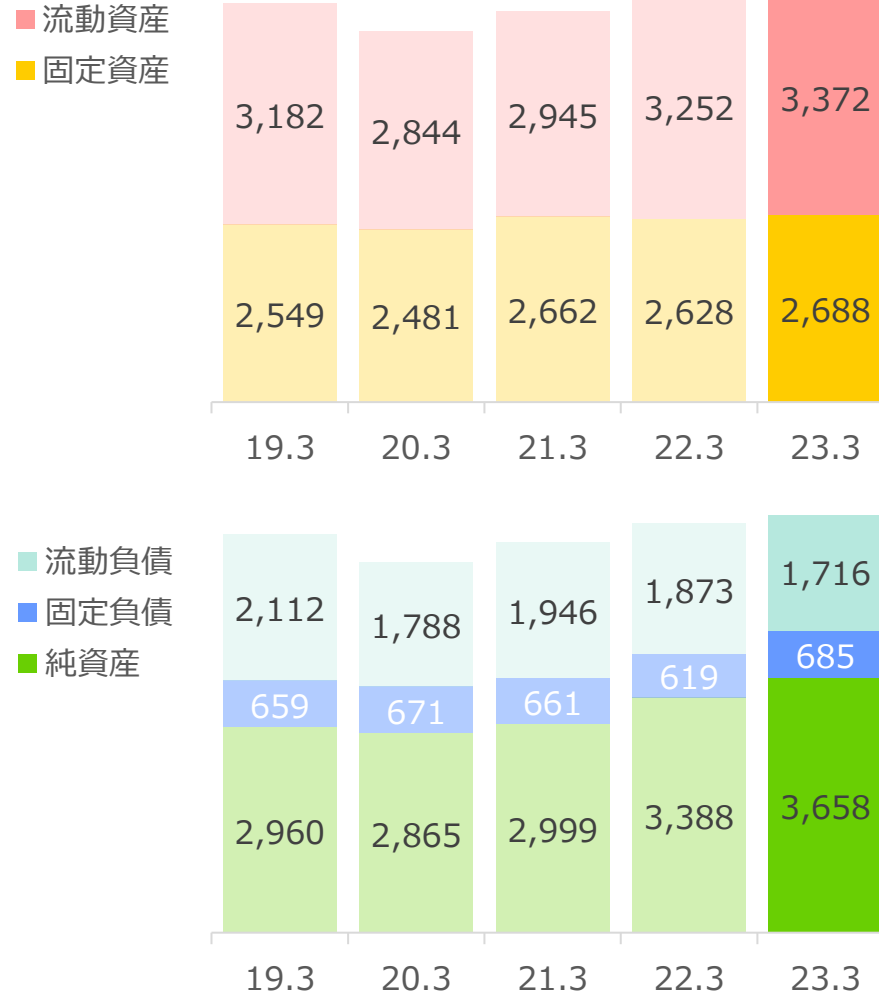
23.3期 実績

(億円)



バランス・シート推移

(億円)



▼資産

配当金支払および借入金返済等により現金が減少。

営業取引の回復および円安推移による在外子会社資産の円換算額押し上げにより営業債権は増加。

▼負債

営業取引の回復により仕入高は増加したが、支払条件の見直し等や法人税の支払等により負債は減少。

▼純資産

為替換算調整勘定が増加。

また、親会社株主に帰属する当期純利益により利益剰余金が増加。

設備投資・減価償却費（事業別）

(億円)

		22.3期 実績	23.3期 実績	24.3期 予想
設備投資	懸架ばね	30	45	78
	シート	50	46	59
	精密部品	113	121	196
	産業機器ほか	30	58	63
	全社共有	7	9	40
	合計	232	280	436
	前期比	△6.9%	20.7%	55.3%
減価償却費	懸架ばね	66	66	62
	シート	48	55	48
	精密部品	114	113	122
	産業機器ほか	36	35	39
	全社共有	17	17	25
	合計	283	288	296
	前期比	2.9%	2.0%	2.5%

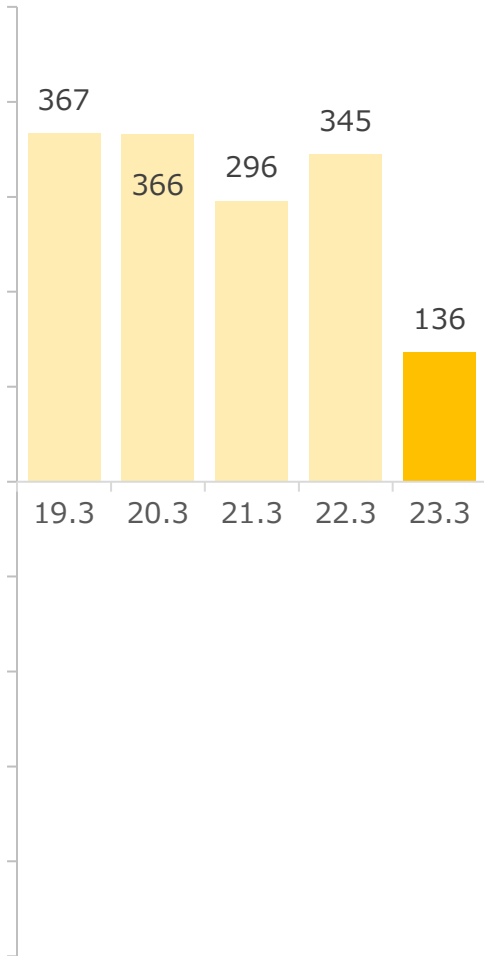
設備投資・減価償却費（地域別）

(億円)

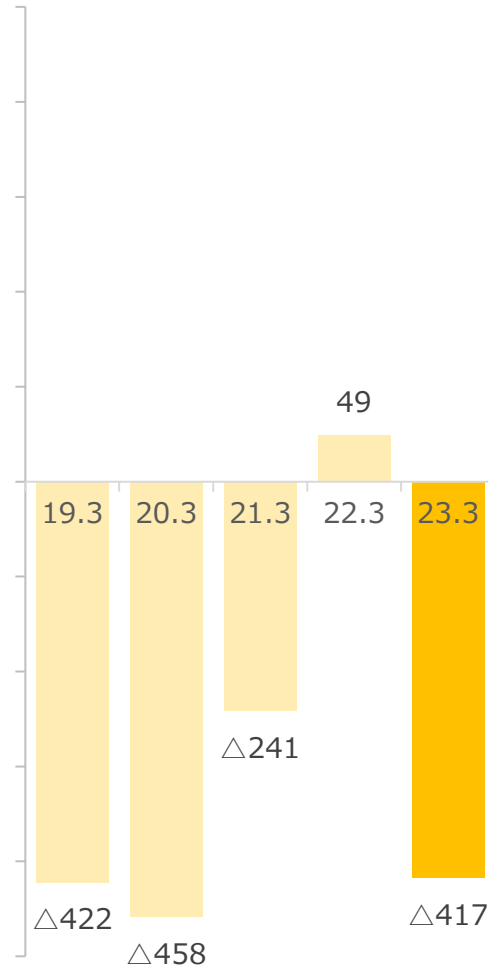
		22.3期 実績	23.3期 実績	24.3期 予想
設備投資	日本	130	178	252
	アジア	73	61	126
	米欧ほか	28	40	58
	海外計	102	102	184
	合計	232	280	436
減価償却費	日本	165	149	162
	アジア	73	86	91
	米欧ほか	44	52	43
	海外計	117	139	134
	合計	283	288	296

キャッシュ・フローの状況

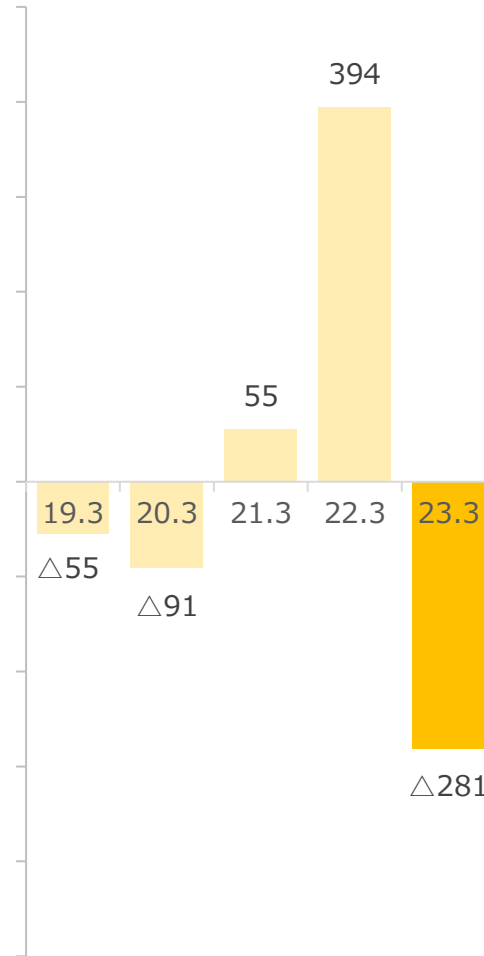
営業CF



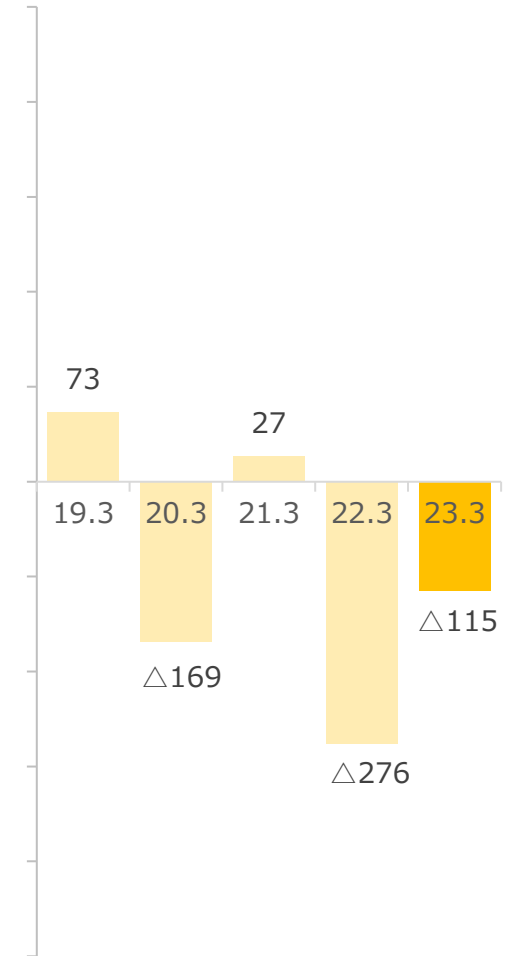
投資CF



フリーCF



財務CF

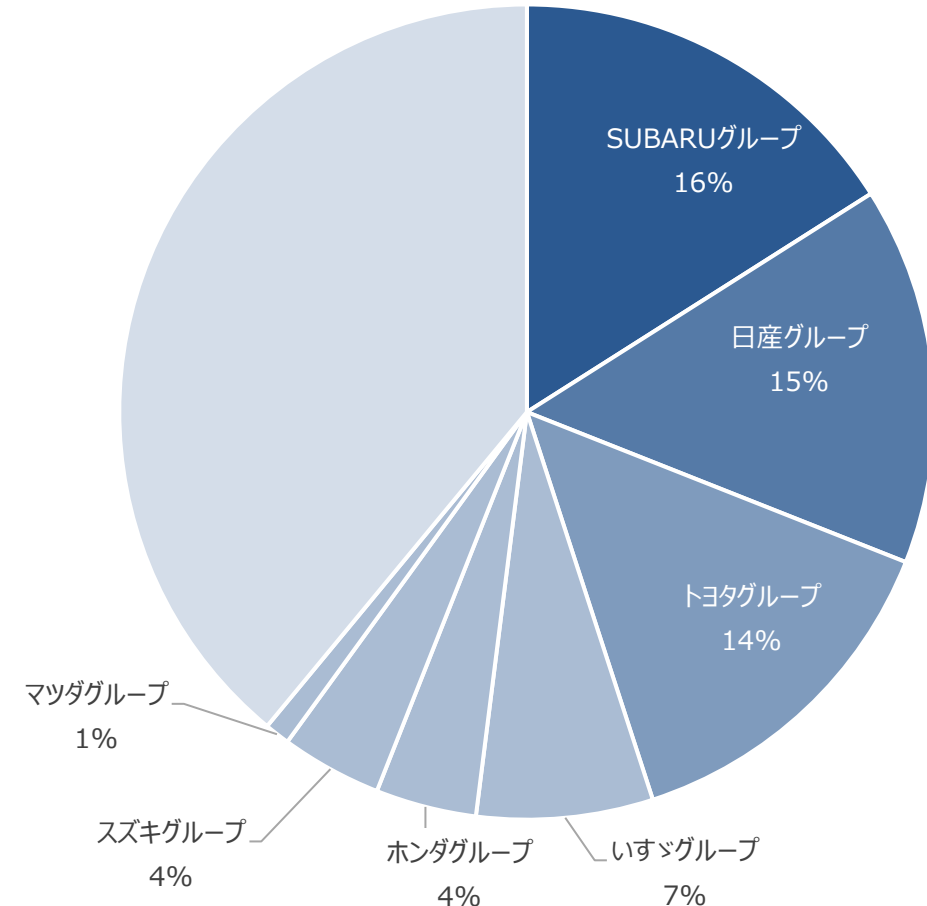


(億円)

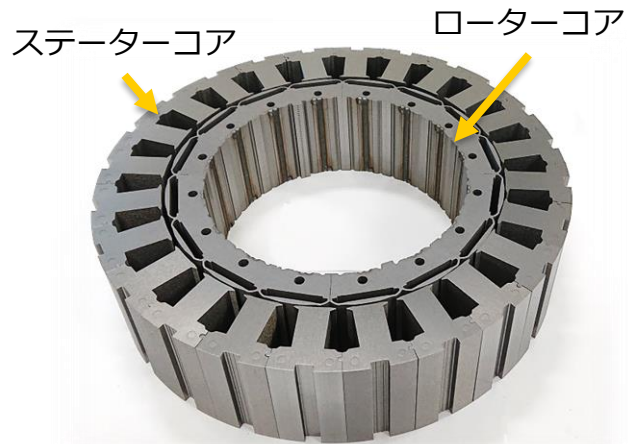
総売上高に占める主要カーメーカーへの売上比率は？

主要カーメーカー	22.3期 実績	23.3期 実績
SUBARUグループ	15%	16%
日産グループ	14%	15%
トヨタグループ	13%	14%
いすゞグループ	6%	7%
ホンダグループ	4%	4%
スズキグループ	4%	4%
マツダグループ	1%	1%
上位3社	42%	45%

(注) 比率は総売上高に対する割合



■モーターコア



当社で手がけるモーターコアは、EV、HV自動車の駆動用、または発電用モーターに使用される積層鉄心です。

0.25～0.35mmの電磁鋼板をプレスで打ち抜いて数百枚積層したもので、カシメや溶接により締結されております。

モーターコアは磁石が挿入されてモーターの回転部となるローターコアと、固定となる巻き線部のステーターコアから構成されます。

バッテリーからの電力がインバーターを介してモーターに供給され、コイルを巻き付けたステーターコアに発生する回転磁界の作用によりマグネットが組み込まれたローターコアが吸引・反発することでローターコアが高速回転します。

薄板の積層鉄心であるモーターコアは磁力線が通りやすく、より強い磁力を発生させる機能を持ちます。

モーターコアは直径200mm前後、高さ150mm前後で、当社で手がける精密プレス加工品としては比較的大きいサイズとなりますが、必要とされる製品寸法精度がミクロンレベルであり、当社で長年かけて築き上げてきた自動車用部品の精密プレス加工技術や、HDD（ハードディスクドライブ）用部品の精密プレス加工技術を駆使した、大型の超高精度プレス加工品であります。

モーターコアの生産において肝となるプレス金型は、設計～製作～メンテナンスまで一貫して自社で行っており、国内だけでなく、グローバル展開しておりますメキシコ、中国の工場でも同じ品質のモーターコアの生産が可能です。

製品紹介：HDD（ハードディスクドライブ）用サスペンション



HDD用サスペンションは、HDDの中で、ディスク上のデータを読み書きする微小部品を支える特殊ばね製品です。

現在、HDDは個々のパソコンの中に入っている数よりも、SNSや動画共有サイトなどのサービスを運営する会社のデータセンターにある数の方が多く、そこでは超大容量HDDが数十万個単位で並んでいます。

CLAタイプ*（以下CLA）のHDD用サスペンションが数多く使われており、写真の例では、HDD 1台に対しCLAが18個搭載されています。CLAは、製品先端部に組み込んだ超小型アクチュエータで、データを読み書きする微小部品を動かします。中央部に小型アクチュエータを組み込んだ従来製品のDSA*（以下DSA）に比べ、より高速に微細な動きができます。

人に例えるなら、DSAは手首まで、CLAは指先まで使う感じで、素早く細かな動きができるようになったことから、位置決め精度や速度が向上し、超大容量HDDには欠かせない製品になりました。

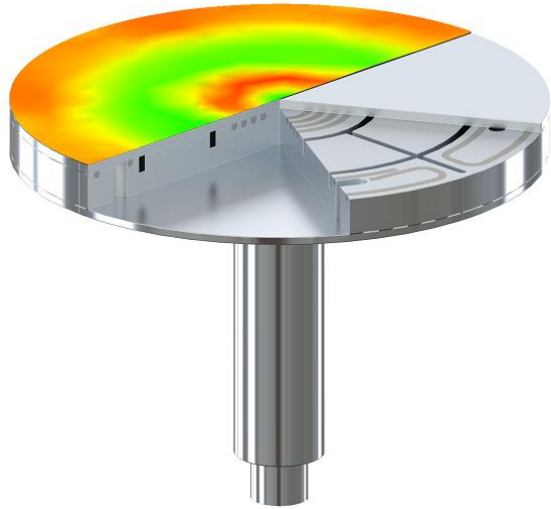
当社ではCLAを2016年1月から世界に先駆け量産化し、世界トップシェアを誇っています。

*CLA = Co-Located Actuatorの略

*DSA = Dual Stage Actuatorの略



■ 成膜装置用マルチゾーン制御ステージヒータ



■ エッチング装置用溶射付冷却板



半導体はシリコンの基板の上に導線および絶縁物が微細かつ複雑なパターンで描かれ、回路が形成されています。ニッパツの半導体プロセス部品は半導体製造の主要工程である“成膜”および“エッチング”の工程で用いられています。

ニッパツのステージヒータはCVD、ALD*などの成膜工程で広く採用されています。主にアルミ合金、ステンレスなどの金属製で、長年培ってきた高度な接合技術により、複雑な内部構造の実現が可能です。

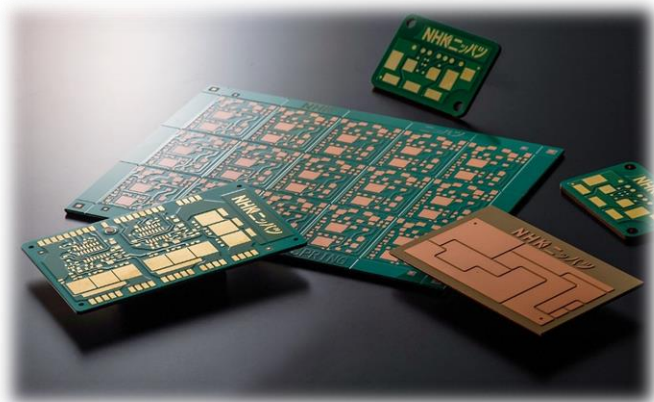
*CVD；Chemical Vapor Deposition（化学気相成長）の略

*ALD；Atomic Layer Deposition（原子層堆積）の略

ヒータエレメントの設計技術、シミュレーションのための解析技術を駆使し、複数のヒータエレメントや冷媒用チャンネル、断熱空間を配置し、均一な温度分布のみならず、部分的に数十度の範囲で差を生み出す、積極的な温度分布制御を可能にしています。

一方エッチング装置向けにおいては、冷却板と呼ばれる、プロセス中のシリコンウエハが載荷される、重要なステージ部品を製造しています。多くはアルミ合金で造られており、ヒータ同様高度接合技術を核に、材料調達から精密加工、セラミクス溶射施工までの一貫生産を強みとしています。

近年では、チャンバ下部でウエハを支持するヒータ、冷却板に加え、チャンバ上部に設置され、プロセスに必要なガスを供給するための部品であるシャワーヘッドの開発にも注力しており、売上を伸ばしております。



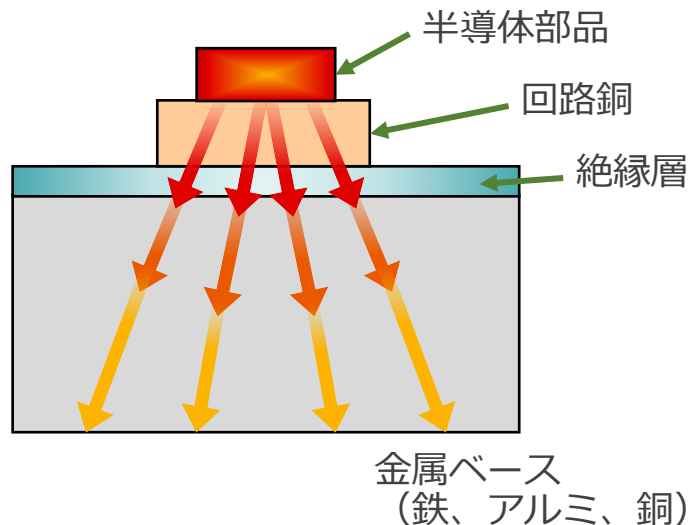
金属基板（以下IMS）は、ベースにアルミや銅などの金属板の上に絶縁層を介して回路を形成したもので、放熱性が優れているという特徴があります。その放熱性を活かして、車載用、産業用、民生用の分野で、IMS上に実装される半導体部品などが発生させる熱を効率よく逃がすという働きで使われております。

自動車分野では、電気自動車やハイブリッド車に搭載されるDC-DCコンバータや充電器モジュールなどへの採用が増えており、将来的には駆動用のインバータ回路への採用も目指しております。産業用途では、汎用インバータやエアコンのインバータ回路の他にも、再生可能エネルギーのパワーコンディショナー内部のパワーモジュールとして当社IMSが多く使用されております。

当社のIMSの特徴は、高放熱・高信頼な絶縁層の開発から製造、そしてIMSに仕立てるまでの一貫生産を行うことを強みとしております。

当社では、1980年代よりIMS開発を開始し、現在に至るまで次々と高放熱絶縁材を市場に送り出し業界をリードしております。

■ IMSの断面構造図



NHKニッパツ

- 本資料に記載している日本発条(株)の予想、計画は、将来の実績等に関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、経済情勢、市場動向、為替の動向等、重要な要素の変動により、見通しとは異なる結果となり得ることもご承知下さい。
- 本資料に掲載されている事項は情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。
- この資料の著作権は日本発条(株)に帰属しております。
- 無断転載・複製することを禁じます。